

じゅうし　じょうるり　にんぎょう
出牛浄瑠璃人形

(県指定有形民俗文化財) (町指定無形民俗文化財)

かつては中山道筋の本庄・児玉方面から秩父への重要な道筋で、「出牛の宿」として栄えた地に伝わる三人遣いの人形である。義太夫も大変盛んで、不動堂には大正3年の義太夫連の奉額に90名もの名がみえる。芸座には安政2年(1855年)の銘がある。

人形は主遣いが人形の首と右手、左遣いは人形の左手、足遣いは人形の足さばきといった役割で、黒衣装に頭巾をつける。

出牛人形は不動様の縁日に三番叟の人形を飾り供えたり、雨乞い人形とも呼ばれる菅丞相の人形を飾り祈雨を願ったりなど、人形の持つ呪力や信仰が今でも生きている。

傾城恋飛脚
けいせいこいびきやく
新口村の段
にのくちむらだん



◆出演者

指 導／堀口 英彦　　口 上／大上 晴夫　　着付け／高橋 富美子 若林 玉枝
解 説／四方田 治男　　幕 引／三野 順司　　堀口 米子

首 飯嶋 憲一　　首 四方田 宣行
忠兵衛／左手 堀口 士富 (四方田 忠則)　　梅 川／左手 若林 玉枝 (高橋 富美子)
足 宮前 幸一　　足 堀口 米子

首 四方田 順造　　首 四方田 治男
孫右衛門／左手 山口 勝久　　女 房／左手 若林 伸高 (飯嶋 勝)
足 大上 晴夫　　足 山本 文隆

首 青木 徳行
追 っ 手／左手 四方田 勝吉
足 四方田 俊一

◆あらすじ

○「新口村の段」まで

飛脚屋で働く忠兵衛は、遊女梅川と恋に落ち、取引先に届けるはずのお金に手をつけてしまいます。大罪を犯した忠兵衛は梅川とともに自分の故郷、新口村まで逃げてきました。

○「新口村の段」

新口村に着いた忠兵衛と梅川は、知り合いである忠三郎の家を訪れ、忠兵衛の親である孫右衛門の近況を聞こうとしますが、家に居たのは忠三郎の女房のみ。女房に聞けば、村ではすでに事件のことが話題になっており、追っ手も追っているとのこと。忠兵衛は女房に忠三郎を呼ぶよう頼み、二人で身を潜めます。

雪が舞う外の様子を障子の隙間から眺めていると、偶然、孫右衛門が通りかかりました。孫右衛門は雪で足を滑らせて転んでしまいます。梅川は思わず孫右衛門を家の中に招き入れ、自分の身の上を明かさずに介抱します。しかし孫右衛門は梅川が息子の連れ合いだと悟り、息子が罪人になった以上、会えば自分が縄をかけねばならぬと考え、息子に会うわけにはいかないと伝えます。梅川は機転を利かせ、孫右衛門に目隠しをして忠兵衛と対面させるのでした。追っ手がやってきます。孫右衛門は2人に抜け道を教え、降りしきる雪の中で息子たちを見送るのでした。

人形と操り方

文楽系三人遣いの人形で、主遣いが左手で人形の首を、右手で人形の右手を、左遣いは人形の左手、足遣いは人形の両足をそれぞれ操ります。

出牛の人形は、首は12～13センチ、身の丈も80～90センチ程あります。

一体を三人で操るため、修練を積まないと人形の動きがばらばらになってしまいます。しかし、三人による複雑な操作により、より細かな表現が可能なのです。



三人遣い



裸人形

舞 台

昭和12年に大道具類の保管場所であった西福寺が火災にあい、舞台道具もほとんどが焼失してしまったため、詳細は不明です。

幸いにして、豪華絢爛な上芸座・下芸座は焼失をまぬがれ、下芸座には「安政二年卯孟春武州榛沢郡手斗産弘山彫」と記されていることが確認できます。



かみぼぎ
上芸座



しもぼぎ
下芸座

出牛浄瑠璃人形保存会

(秩父郡皆野町金沢出牛地区)

出牛は、中山道上州方面から大宮郷（秩父市）へ通じる旧秩父往還の重要な中継地点として古くから宿場町として栄え、特に江戸後期から明治にかけて隆盛を極めました。

人形芝居は、出牛が宿場として栄えていた時期に、宿場の娯楽芸能としてもたらされました。

残念ながら記録文書や資料が残されていないため、確実な起源は分かりませんが、芸座に安政2年（1855年）の年号が記されていることから、少なくとも幕末には行われていたことが分かります。

日清戦争当時が人形芝居の最盛期で、上州方面まで興業に出かけたと伝えられています。

その後、交通網の発達などにより宿場は衰退し、人形芝居も大正5年の上演を最後に中断してしまいました。

長い間人形は、土用干しに出されるだけとなってしまいましたが、昭和41年に復活の気運が盛り上がり、青年達を中心に保存会が結成されました。古老の指導を受けて人形芝居を上演し、半世紀ぶりに復活させたのです。

現在は、萩神社祭礼の付け祭りであるつつじ祭り（5月5日）、郷土芸能大会、秩父人形ミットなどで上演を重ねています。

定期上演

皆野町金沢萩神社祭礼の付け祭り（毎年5月5日）

主な演目

つばさかんののれいげんま けいせいこいひきやく にのくむら えほんたいこうき あまがさき
「壺坂観音霊驗記」、「傾城恋飛脚 新口村の段」、「絵本太功記 尼ヶ崎の段」、

ごしょざくらほりかわようち べんけいじょうし
「御所 櫻 堀川夜討 弁慶上使の段」